

群 教 セ	G14 - 01
	平16.220集

自分の思いを育みながら課題を より深く追究しようとする児童の育成

- 総合的な学習の時間

「マイバケツでバンドウ米を育てよう！」を通して -

特別研修員 大澤 孝次（伊勢崎市立坂東小学校）

《研究の概略》

本研究は、総合的な学習の時間に体験的な学習活動であるマイバケツでの米作りを通して、児童が自分の思いを大切に育みながら、自分の課題をより深く追究しようとする児童の育成を目指す。マイバケツでの米作りの体験と自分の思いを大切に様々な活動の工夫により、思いを膨らませながら自らの課題を設定し、2つの追究活動と発表会を通して、課題をより深く追究しようとすることを実践を通して明らかにする。

【キーワード：教育課程 総合的な学習 - 小 体験的な学習 バケツ稲作り 自分の思い】

主題設定の理由

本校の総合的な学習の時間は、3年生から6年生までが、環境と福祉について半年ずつ系統的に取り組んでいる。その4年間で「自ら課題を見つけ、解決のための手だてを考えようとする子」「周りの人々や環境と積極的にかかわり、互いに高め合える子」「願いや思いの達成に向かって努力できる子」を目指す児童像として設定している。環境では、3年生「生き物マップを作ろう」、4年生「環境リサイクルをしよう」で体験的な学習活動を行ってきた。5年生では、昨年度まで「地区の川を考えよう」に取り組んできたが、より目指す児童像に迫るために、本年度から「バケツ稲作り」の体験的な学習活動を取り入れることになった。

本学級（小学校5年 男子17名 女子15名 計32名）の児童は、社会科で「米づくりのさかんな庄内平野」を学習し、米づくりに取り組む人々の工夫や努力を理解し、米の生産が私たちの生活を支えている意味を考えている。しかし、本校は、伊勢崎市南部の新興開発地域で、農業にかかわる家庭はほとんどなく、米づくりを身近に見たり、体験したりしている児童はほとんどいない。そこで、稲作りは、興味関心をもち意欲的に取り組める活動と考えられる。

体験的な活動には、児童のアンケートから、ほとんどが「楽しく取り組むことができた。」と答えている。しかし、その活動で「勉強になったことは何ですか。」の項目に対しては、具体的な内容を答えられる児童は約20%だった。つまり、児童の多くは体験活動には意欲的に楽しく取り組んでいるが、自分で課題を設定し、取り組み、まとめ、自分のものとして深化させるまでには到っていないと考えられる。また、児童は「課題設定 取り組み まとめ 伝える」の学習過程の流れを理解し、一応その流れの通りに活動することはできるが、その内容は浅いものに終わってしまいがちである。それは、課題設定の際に十分な検討がされず、取り組む意欲が継続しなかったり、相手や目的を意識しないでまとめたりすることなどが考えられる。

そこで、長期間に渡る体験的な学習活動であるバケツ稲作りと様々な工夫を通して、まず自分の思いを大切に育む。そして、次に意欲的に自ら考えて「課題設定 追究 広げる」をより深化させる。そして、自分の思いを大切に育みながら自分の課題をより深く追究し解決しようとする児童を育成することができると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

総合的な学習の時間において、体験的な学習活動であるマイバケツでの米作りと工夫された様々な活動を通して、自分の思いを大切に育み、その思いを追究する意欲に生かして自分の課題をより深く追究し解決しようとする能力や態度が育成できることを、実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 「みつける」過程では、「稲を大事に育てたい」という自分の思いをもち、マイバケツに自分の思いを書くなどの工夫をした米作り体験により、自分の思いを大切にしながらバケツ稲作りでの気づきを生かした課題を設定することができるだろう。
- 2 「さぐる」過程では、マイバケツから収穫した御飯を食べる感謝の会を通して、「自分の課題に迫りたい」という自分の思いを深め、図書室の本とインターネットで追究する活動(「さぐる1」) 実践的に校外等で追究する活動(「さぐる2」)の2段階で追究することにより、その内容をより深めることができるだろう。
- 3 「ひろげる」過程では、「わかったことをみんなに伝えたい」との自分の思いを大切にしながら自分の課題についてまとめた内容を、発表会で人に伝え、それについての質問・意見を聞くことにより、さらに自分の課題に対する追究を広げることができるだろう。

研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 「自分の思いを大切に育む」について

まず「自分のバケツ稲を大切に育てたい」という思いをもち、次にバケツ稲作りの一つの活動に対する思いを通して「稲を大切に育てて良かった」という思い、そして自分の設定した課題に対する「自分の課題に迫りたい」という思いにつながり、「分かったことをみんなに伝えたい」という思いに膨らませたい。ここでは、随時自分の思いを学習記録カードで振り返りながら自分の思いをさらに育てていく。

バケツ稲作りでは、マイバケツで稲を育てることにより稲に対する自分の思いを強くもつようになり、バケツ稲作りの様々な活動に意欲的に取り組むことができる。土作り・種まき・田植え・稲刈り等の稲作りのポイントを体感することや継続的な稲の管理(水やり、除草等)の際にも、自分の思いを膨らませることができる。また、自分の思いを大切にするために、「一番最初の思いをバケツに大きくマジックで書いて、収穫するまで振り返ることができるようにする。」「稲の名前を公募して決める。」「専門的な立場(農政事務所)の方に支援をしてもらう。」「観察日記に自分の思いを合わせて記入する。」「米新聞に自分の思いも載せて発行しする。」「鳥の被害から守るためにかかしを自作する。」等の活動を取り入れる。

(2) 「課題をより深く追究しようとする」について

バケツ稲作りの様々な体験を通して、疑問に感じたり不思議に思ったりしたことの中から、さらに深く追究したいことを夏休みのミニレポート作成の活動を通して吟味し、課題を決定する。そして、自分の思いを大切にしながら自分の課題を継続して意欲的に追究していく。また、追究したものをまとめて発表し、意見交流を行い、さらに深めていく。

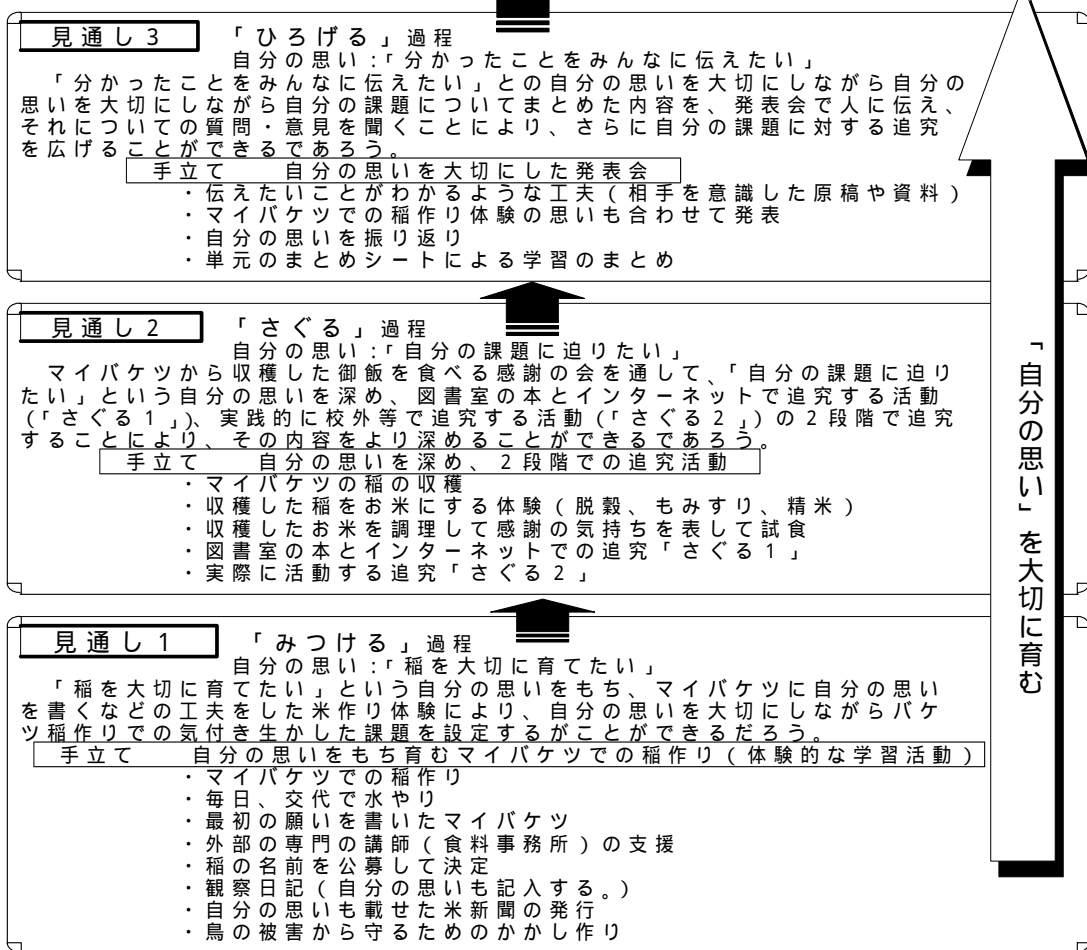
(3) 体験的な学習活動「マイバケツでパンドウ米を育てよう！」について

「体験的な学習活動」とは、かかわる対象（バケツ稲作り）を常に意識している学習活動である。かかわりを通じた体験は、一人ひとりの児童の心を動かし、興味や「気付き」を呼び起こし、それが学習への動機付けとなる。バケツ稲作りは、身近にあるバケツを田んぼにして稲作りを体験できるものである。バケツで稲を育てるという一連の作業を通じて、お米や稲作文化について理解を深めることができる。また、日々の稲の管理や観察という活動は、継続的な長期的体験活動で、種もみが芽を出してから収穫までの約半年にわたる道のりはなかなか大変なものである。例えば、天候などの影響でうまく育たなかったり、スズメに食べられてしまったりするが、お米ができたときは大きな喜びを得ることができる。小さな一粒の種もみがどのように立派な稲に育っていくのか、児童が自ら確かめることができる。

(4) 全体構想図

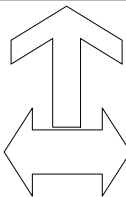
【めざす児童像】

自分の思いを大切に育みながら課題をより深く追究しようとする児童



【児童の実態】

- ・体験的な活動には、意欲的に取り組む。
- ・調べ活動の流れ（課題を決め、調べ、まとめ、伝える）は理解できている。
- ・課題への追究が弱い。
- ・追究したことをうまく人に伝えられない。



【教師の願い】

- ・自分の思いを大切にしながら活動（課題設定・追究・広げる）する。
- ・課題を良く吟味して設定する。
- ・深まりのある追究活動をする。
- ・追究したことを人に分かり易くまとめ、発表できる。

2 実践の概要及び結果と考察

(1) 自分の思いを大切にしながらバケツ稲作りでの気づきを生かした課題を設定することができたか。(見直し1)

ア 実践の概要

オリエンテーションを開き、マイバケツを使った稲作りを始めた。オリエンテーションの時に、食糧事務所の方を外部講師に招いて専門的な立場からの稲作りやバケツ稲の方法についての話を聴かせてもらったり、資料を見せてもらったりして、バケツ稲作りの概略を知った。芽出しを始める一方で、用意したバケツに「おいしいお米が、たくさんできますように」等の各自がもった最初の思いをマジックで大きく記入し、いつでもその思いを振り返れるようにした。また、自分の思い(「早く大きく育てて欲しいです。」等)を記入しながらの観察日記

(図1)を付け始めた。さらに、バケツ稲に対する思いを膨らませるために、お米の名前をみんなで考え、坂東小の名前を取って「バンドウ米」に決めた。

田植えをした日から、毎日、交代で水やりを始め、自分たちの手で世話をしたバケツ稲を育てていった。(図2)また、他の人にバケツ稲の活動や自分たちの思いを知ってもらうために米新聞を作った。さらに、夏休みを利用して各自が、不思議に思ったことや調べてみたいことをミニレポートにまとめた。そして、今までの活動を通して、自分の思いを大切にしたい課題を設定した。



図1 観察日記

イ 結果と考察

マイバケツでの米作り体験では、自分のバケツの稲に愛着をもって、観察を楽しみにして水やり等の稲の世話をした。土作り・田植え・稲刈り等の稲作りのポイントの体験活動は興味・関心をもって大変意欲的に取り組むとができた。また、様々な工夫では、どの活動にも自分の思いを充分にもって取り組むことができた。アンケート結果(5月・7月)からも「大切に育てたい」「最後まできちんと育てたい」「愛情をもって育てたい」とほぼ全員が答えている。

5月のアンケートで「調べたいこと」は、「もみの中は、どうなっているのか」「稲の生え方は、どうなっているのか」「バケツ稲を考えた人は誰か」など、思いつきの疑問が多く出された。夏休みのミニレポートでは、「世界の米」「稲に必要な肥料と土」「バケツ1個でどの位の米が採れるのか」等の課題が出された。そして、10月に個人で課題を決め、11月に課題の内容が近い個人が集まりグループになり本格的に追究する課題として決定した。「昔の稲作りと歴史」「世界の米」「稲の病気」「米を使った食べ物」「土について」「害虫について」「稲の成長」「お米の種類」などの課題を設定した。

このようにマイバケツでの米作りを意欲的に取り組むたことで「稲を大切に育てたい」の思



図2 バケツ稲作りの世話

いをさらに育むことができた。そして、その思いを意識しながら意欲的に活動に取り組み、米作りの中からの気づきを段階を踏むことによって吟味して課題を設定することができたと考えられる。

(2) 「自分の課題に迫りたい」と自分の思いを深め、その内容をより深めることができたか。

(見通し2)

ア 実践の概要

10月にバケツ稲の稲刈りを行い収穫をした。そして、農政事務所の方を招いて脱穀やもみすりを全員が体験した。また、自分の思いのためにお世話になった人や自然の恵みに対して手紙を書き感謝の意を表し、収穫した米で御飯を炊き、収穫の喜びを分かち合いながら食べた。これらの活動で自分の思いを大切に育みながら、自分の課題に対する追究の意欲をさらに高めた。追究する第1段階「さぐる1」として自分の課題に対する、文献とインターネットでの基礎追究を行った。その第2段階(発展段階)「さぐる2」として、「どうすれば自分たちの課題をより深く追究することができるか。」を考えて活動を計画し、実践を行った。

イ 結果と考察

収穫後の自分の思い振り返りカードに「とうとうお米になるんだ」「育てて良かった」「やっとここまで成長した」のような記述が多く見られた。また、課題追究では「調べられるか不安」「思ったより調べるのが難しそう」「良い発表ができるように頑張ろう」などの思いをもって追究する活動に取り組み始めた。

「さぐる1」は、ほとんどのグループが図書室の本とインターネットを使って順調に調べ課題を追究することができた。「さぐる2」では、自分たちの課題や内容に合った計画を立てることができた。「昔の稲作りと歴史」を追究するグループでは、自分たちで調べた古代の道具を段ボールでミニチュアで作ったり、「世界の米」を追究するグループでは、日本語教室でインタビューしたりする活動を行った。(資料1)

資料1 主なグループの「さぐる2」の活動

グループ	課題	内容	さぐる2
1	昔の稲作りと歴史	利用の歴史、手作業から機械作業へ、古代の道具等	古代道具のミニチュア作り
2	世界の米	特徴、種類、どんな料理 (イタリア、アメリカ等、全7カ国)	日本語教室でインタビュー
3	稲の病気	病気の種類、症状、罹り方	専門機関に電話で質問
4	米を使った食べ物	世界の米料理、日本の食べ物	インタビュー 料理の試食
5	土について	土の成分、黒土について、バランスの良い土、一番適した土地	黒土の中を調査
6	害虫について	8種類の害虫について	害虫を捕まえて観察
7	稲の成長	稲の成長観察日記、1年の農作業の流れ、稲の一生等	農家の人にインタビュー

このように稲の収穫や感謝の会等で思いを深めることができた。その思いを持って2段階での追究活動に自分たちで考えて取り組んだことにより、さらに深く内容を追究することができたと考える。

(3) 自分の課題についての追究を広げることができたか。(見通し3)

ア 実践の概要

自分の課題について「さぐる1」「さぐる2」で追究したことを、発表会に向けた自分の思いを大切にもちながら、他のクラスの5年生と農政事務所の方に伝えることを意識してまとめ、発表の準備をした。

発表会では、発表に対しての質問や意見を聞き、それを自分の課題追究に取り入れ、その内容をさらに広げた。そして、自分の課題追究のまとめを行った。

イ 結果と考察

発表会の準備では、児童はしっかり取り組むことができた。発表会前の自分の思いを振り返

る学習記録カードには、「分かりやすい発表にしたい」や「落ち着いて発表したい」等の思いが記述されていた。発表会では、多くの質問が出されたり、農政事務所の方から専門的立場からの意見をもらったりした。発表会のまとめシートには、「質問されることを考えてたくさん調べたことが、良かった。」「質問されたのに、あまり答えられなかったのが、だめだった。」「質問にもう少し答えられた方が良かった。もっと、いっぱい調べられれば良かった。」等の記述があった。まとめの段階では、発表会で質問されたことを調べたり、意見等のアドバイスを取り入れ、自分の課題をさらに深く追究することができた。

単元のまとめシートの反省には、「バケツ稲は、水やりの他にも、田植えや稲刈り、^{もみ} 籾すりや精米など、いろいろなことがあって、その一つ一つがよく分かりました。他にも、いろいろなことを調べたけどまだ調べたりないことがありそうなので、もっとたくさん詳しく調べられれば良かったと思います。」「最初は上手くできるか心配だったけど、何とかできて良かったです。バケツ稲の中に雑草を生やしてしまって、残念です。でも、たくさん調べられて、発表できてよかったです。」「バケツ稲を育てて、世界にはどんなお米があるのか知りたかったから『世界の米』とテーマを決めて調べました。調べていてわかったのは、世界にはすごくたくさんのお米があることです。だから、とても楽しかったです。もっと、他の国のお米を詳しく調べたかったけど、時間がなくて調べられなくて残念でした。」等の記述があった。

このように児童はマイバケツでの稲作りを通して課題を追究活動に満足することができたことから、自分の思いを大切に育みながら課題をより深く追究しようとする児童を育成することができたと考えられる。(資料2)

資料2 自分の思いを 振り返ってのA男の感想

「うまい米になれ!」と願いながら、気持ちを込めて育てたから、おいしい米ができたんだと思います。稲の成長(自分の課題)について調べていた時は、どんどん(調べたいことが)見つかって、楽しくできました。もっともっと調べたいです。それに発表も、うまくいったので、稲作りは成功でした。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

課題設定の段階では、マイバケツでの米作りの体験により自分の思いをもち膨らませながら、自分の気づきを吟味して課題を設定することに生かした。課題追究の段階では、その思いを大切に育みながら2段階で追究活動したことにより、より深く課題を追究することができた。また、発表会を通して、自分の思いを膨らませて課題をさらに追究することができた。このように米作り体験と自分の思いを大切にする様々な活動の工夫により、自分の思いを大切に育みながら課題をより深く追究しようとする児童を育成することができたと考えられる。

2 今後の課題

本研究では、バケツ稲作りが収穫の段階になった頃に課題を設定したが、今後はもう少し早い段階で課題設定をし、バケツ稲作りと課題追究の活動を並行して行うことで、学習を幅広く充実したものにしていきたい。また、自分の思いを大切に育んだ活動と課題を追究する活動とがうまく結び付かない児童もいた。自分の思いを大切に育むことが、より深く課題を追究しようとすることに一層確実につながる手立てを充実させるように考えていきたい。

参考文献

- ・寺西 和子 著 『総合的学習の理論とカリキュラムづくり』 明治図書(2000)